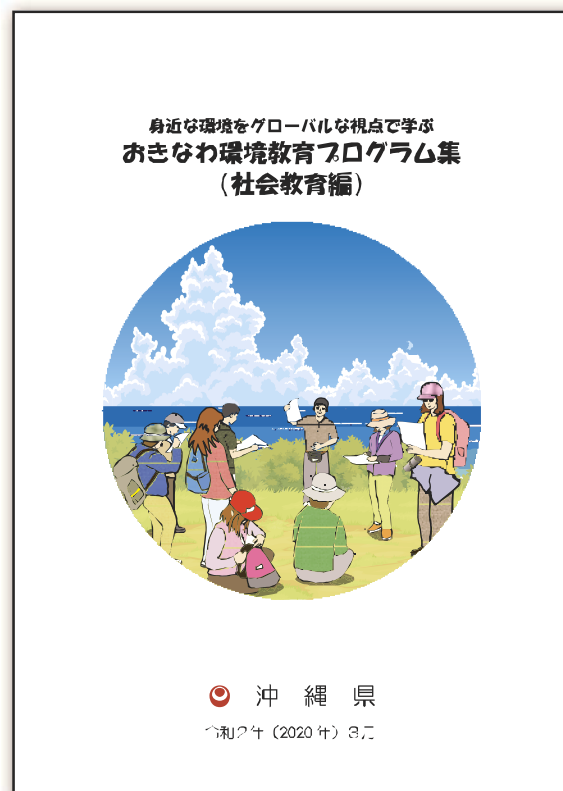


# おきなわ環境教育プログラム集 (学校教育編)(社会教育編)

## 概要版



# 1 沖縄県環境教育プログラムの改訂について

沖縄県では、持続可能な社会の実現のため、「体験を通じて、自ら考え、調べ、学び、そして行動する」というプロセスを大事にして、地域や学校現場での環境教育の実践に役立てることを目的とした「沖縄県環境教育プログラム（小学校・中学校編）（高等学校・環境団体編）」を平成15年度から平成17年度にかけて作成しました。

本プログラムの作成から10年以上が経過しており、今般の環境問題や本県の自然環境を取り巻く状況も変化していることから、時代に即した内容とするため、令和元年度に本プログラムの改訂作業を行いました。今回の改訂にあたっては、より学校現場や他の地域での活用がしやすい内容とするため、「小学校・中学校編」を「学校教育編」、「高等学校・環境団体編」を「社会教育編」と再編しました。

※旧版と改訂版の対照については、下表を参照

※学校教育編：小学校高学年から中学生を中心に高校生までもを対象とし、授業時間内で学習が完結する構成  
 社会教育編：幼児から高齢者までの年齢層を対象とし、様々な環境を学べる場所・テーマを想定した構成

名 称	現行版		改訂版	
	沖縄県環境教育プログラム		おきなわ環境教育プログラム集	
	小学校・中学校編	高等学校・環境団体編	学校教育編	社会教育編
プログラム講師・指導者	小学校、中学校の教員、指導者等	高校生、学校教員、NPO等環境団体	小学校及び中学校 高等学校教員	社会教育指導者、講師、企業、団体等
プログラム参加者	小学生、中学生	高校生及び一般	小学生、中学生、 高等学校、特別支援学校	幼児～高齢者
プログラム使用環境	プログラム内容に応じ学校内外	プログラム内容に応じ学校を含む様々な環境	学校内及び周辺	社会教育現場 (学校、学童、クラブ活動、企業研修、長寿大学校等)
プログラム時間	プログラム内容による	プログラム内容による	1コマ45分単位 (1～2コマ)	1時間～2時間程度
プログラム数	43	63	30	35

## これまでに発行された沖縄県環境教育プログラム



2004年3月発行



2005年3月発行



2007年3月発行



2006年3月発行

## 改訂版おきなわ環境教育プログラム集

2020年3月発行



学校教育編



社会教育編

## 2 おきなわ環境教育プログラム集の特徴

学校教育編・社会教育編の各プログラム集は、指導者にとって取り組みやすく、対象者にとって理解しやすい内容を基本としており、2つのプログラム集に共通する特徴とそれぞれのプログラム集の特徴は次のとおりです。

### おきなわ環境教育プログラム集の特徴（共通）

- (1) 「暮らし」「ごみ」「水」「自然」で構成され、私たちの生活に関連した、身近なテーマをプログラムに取り入れました。
- (2) プログラムに「持続可能な開発目標（SDGs）」のアイコンを表記し、世界で起きている環境問題について考える力を身につけます。
- (3) 身近な環境（自然、生活）を学習するとともに、世界の環境とのつながりを考えるプログラム構成としました。
- (4) プログラムは体験型を基本とし、ディスカッションで自分の意見を伝える、また、自分で考える要素（アクティブラーニング）を取り入れています。
- (5) プログラムで使用する道具類は、極力身の回りにある入手しやすいものとしています。
- (6) 防災のプログラムを新設しました。
- (7) プログラムを進める上で必要な知識や情報を参考資料に掲載しました。
- (8) 環境教育関連施設、団体等を掲載し、環境学習を発展・継続できるような情報を掲載しました。
- (9) 学校教育編には社会教育編のデータ、社会教育編には学校教育編のデータを CD 等で巻末に添付し、より多くの場面、対象者で使えるようにしました。

### おきなわ環境教育プログラム集（学校教育編）の特徴

- (1) 各プログラムに学習指導要領の単元との関連付けを示し、様々な教科で活用できるようにしています。
- (2) プログラムの所要時間を、授業時間に合わせた1コマ（45分または50分）の単位とし、授業で完結できる内容としています。
- (3) プログラム内容は、学校内及び周辺でできる身近な環境を題材として扱っています。
- (4) プログラムの応用発展として、学校周辺には無い環境で環境学習をしたい、学校で行ったプログラム学習をさらに深めたいときに「社会教育編」を活用できます。

### おきなわ環境教育プログラム集（社会教育編）の特徴

- (1) プログラムを実施する環境は、県内各地のフィールドを想定しています。
- (2) プログラムの所要時間は1時間半～2時間程度としました。
- (3) プログラム内容は、対象年齢や指導者を問わず気軽に取り組めるよう、身近なテーマを題材として扱っています。
- (4) プログラムの活用者が、教育関係者、NPO 団体、NGO 団体など環境教育に携わる団体、企業の CSR 担当者、観光産業従事者、また、これから活動したい個人など、身近なところから環境問題を考えるきっかけを作る、取り組みやすいプログラム内容としました。
- (5) 特別支援学校などで取り組みやすいよう、「五感」のプログラムを新設しました。
- (6) 学校をフィールドに学習したい場合には、「学校教育編」を参考にプログラムを実施することができます。

### 3 おきなわ環境教育プログラム集の利用方法

項目	学校教育編	社会教育編
①対象	小学校高学年から高校生、 特別支援学校	教育関係者、NPO 団体、NGO 団体、環境教育に携わる団体、企業の CSR 担当者、観光産業従事者、環境教育に関心がある個人等
②所要時間	1 コマ 45 分（学校の授業を想定）	概ね 1～2 時間
③実施場所	学校内及び学校周辺	室内、屋外
④コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が楽しみながら取り組むことができます。</li> <li>・身近なところから体験を通して気づくことができます。</li> <li>・多方面の環境的分野に関する学習や、県内の活動現場に対応できます。</li> <li>・各プログラムから、様々な発展的な取り組みや継続的な取り組みにつなげることができます。</li> <li>・夏休みの自由研究など、さまざまな学習の形で取り組むことができます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が楽しみながら取り組むことができます。</li> <li>・身近なところから体験を通して気づくことができます。</li> <li>・様々な方が講師として自主的に活用できます。</li> <li>・多方面の環境的分野に関する学習や、県内の活動現場に対応できます。</li> <li>・各プログラムから、様々な発展的な取り組みや継続的な取り組みにつなげることができます。</li> </ul>
⑤プログラムの応用・発展 ※添付 CD には両方のプログラムが収録されています。	学校周辺には無い環境で環境学習をしたい、学校で行ったプログラム学習をさらに深めたいときに、「社会教育編」を活用できます。「社会教育編」では、プログラムの所要時間を 1 時間半～2 時間、フィールドでは沖縄県内の様々な環境やテーマを掲載しています。	学校をフィールドに学習したい場合には、「学校教育編」を参考にプログラムを実施することができます。「学校教育編」では、プログラムの所要時間を学校の授業の 1～2 時限（1 時限 45～50 分）、フィールドでは学校内及び周辺での学習を基本としています。
⑥プログラムの概要・学習内容	6～8 ページ参照	9～12 ページ参照
⑦その他	<p>両編ともに、リングファイル製本としており、必要なプログラム箇所等をコピーして使用することを想定しています。</p> <p>各プログラムは、講師（先生）用と参加者（生徒）用の頁があり、講師用には進め方のヒントや解答例等、参加者用には、記入ができるワークシートが掲載されています。</p>	

## 4 おきなわ環境教育プログラム集の基本構成について

章構成	学校教育編	社会教育編				
はじめに～第1章 おきなわ環境教育プログラム集について	P 3～16	P 3～16				
	環境教育プログラムと持続可能な開発目標（SDGs）との関わりや、本プログラム集の改訂経緯、利用方法、安全にプログラムを実施するための配慮事項を掲載しています。 ※使い方の頁は各プログラム集の内容に沿っています。					
第2章 環境教育プログラム	P 23～146	P 19～245				
	各プログラムの構成内容は下表のとおりとなっています。					
	大項目	暮らし	ごみ	水	自然	五感
	中項目	食・地球温暖化・エネルギー・地域・防災	廃棄物・資源	水循環・水利用	生きもの・共生・多様性・外来生物	聞く・触る 見る・嗅ぐ 味わう
学校教育編 該当プログラムNo.	(1)～(12)	(13)～(18)	(19)～(24)	(25)～(30)		
社会教育編 該当プログラムNo.	①～⑫	⑬～⑰	⑱～㉑	㉒～㉔	㉕～㉗	
第3章 参考資料	P 149～223	P 249～323				
	大項目毎に、環境に関する様々な参考情報を掲載しています。					
	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;暮らし&gt;</li> <li>① 食料自給率</li> <li>② フード・マイレージ</li> <li>③ エコロジカル・フットプリント</li> <li>④ フェアトレード</li> <li>⑤ 地球の 대기</li> <li>⑥ 地球温暖化</li> <li>⑦ カーボン・オフセット</li> <li>⑧ 未来のエネルギー</li> <li>⑨ 車社会</li> <li>⑩ 沖縄の自然災害</li> <li>&lt;ごみ&gt;</li> <li>⑪ 沖縄のごみ・リサイクル事情</li> <li>⑫ 海洋ごみ</li> <li>&lt;水&gt;</li> <li>⑬ 地域の水</li> <li>⑭ 沖縄の水</li> <li>⑮ 仮想水（バーチャル・ウォーター）</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;自然&gt;</li> <li>⑯ 地球と生命の歴史</li> <li>⑰ 島の形</li> <li>⑱ 沖縄の土</li> <li>⑲ 沖縄の森や林</li> <li>⑳ 沖縄の野鳥</li> <li>㉑ サンゴとサンゴ礁</li> <li>㉒ 生物多様性</li> <li>㉓ 琉球の生き物たち</li> <li>㉔ 天然記念物と絶滅危惧種</li> <li>㉕ 沖縄の季節</li> <li>㉖ 沖縄の自然と暮らし</li> <li>㉗ 沖縄の外来種問題</li> <li>㉘ 自然公園及び自然観察マップ</li> <li>&lt;その他&gt;</li> <li>㉙ 観光と環境負荷</li> <li>㉚ 沖縄の基地</li> <li>㉛ 環境保全に関連した法律など</li> </ul> </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;暮らし&gt;</li> <li>① 食料自給率</li> <li>② フード・マイレージ</li> <li>③ エコロジカル・フットプリント</li> <li>④ フェアトレード</li> <li>⑤ 地球の 대기</li> <li>⑥ 地球温暖化</li> <li>⑦ カーボン・オフセット</li> <li>⑧ 未来のエネルギー</li> <li>⑨ 車社会</li> <li>⑩ 沖縄の自然災害</li> <li>&lt;ごみ&gt;</li> <li>⑪ 沖縄のごみ・リサイクル事情</li> <li>⑫ 海洋ごみ</li> <li>&lt;水&gt;</li> <li>⑬ 地域の水</li> <li>⑭ 沖縄の水</li> <li>⑮ 仮想水（バーチャル・ウォーター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;自然&gt;</li> <li>⑯ 地球と生命の歴史</li> <li>⑰ 島の形</li> <li>⑱ 沖縄の土</li> <li>⑲ 沖縄の森や林</li> <li>⑳ 沖縄の野鳥</li> <li>㉑ サンゴとサンゴ礁</li> <li>㉒ 生物多様性</li> <li>㉓ 琉球の生き物たち</li> <li>㉔ 天然記念物と絶滅危惧種</li> <li>㉕ 沖縄の季節</li> <li>㉖ 沖縄の自然と暮らし</li> <li>㉗ 沖縄の外来種問題</li> <li>㉘ 自然公園及び自然観察マップ</li> <li>&lt;その他&gt;</li> <li>㉙ 観光と環境負荷</li> <li>㉚ 沖縄の基地</li> <li>㉛ 環境保全に関連した法律など</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;暮らし&gt;</li> <li>① 食料自給率</li> <li>② フード・マイレージ</li> <li>③ エコロジカル・フットプリント</li> <li>④ フェアトレード</li> <li>⑤ 地球の 대기</li> <li>⑥ 地球温暖化</li> <li>⑦ カーボン・オフセット</li> <li>⑧ 未来のエネルギー</li> <li>⑨ 車社会</li> <li>⑩ 沖縄の自然災害</li> <li>&lt;ごみ&gt;</li> <li>⑪ 沖縄のごみ・リサイクル事情</li> <li>⑫ 海洋ごみ</li> <li>&lt;水&gt;</li> <li>⑬ 地域の水</li> <li>⑭ 沖縄の水</li> <li>⑮ 仮想水（バーチャル・ウォーター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;自然&gt;</li> <li>⑯ 地球と生命の歴史</li> <li>⑰ 島の形</li> <li>⑱ 沖縄の土</li> <li>⑲ 沖縄の森や林</li> <li>⑳ 沖縄の野鳥</li> <li>㉑ サンゴとサンゴ礁</li> <li>㉒ 生物多様性</li> <li>㉓ 琉球の生き物たち</li> <li>㉔ 天然記念物と絶滅危惧種</li> <li>㉕ 沖縄の季節</li> <li>㉖ 沖縄の自然と暮らし</li> <li>㉗ 沖縄の外来種問題</li> <li>㉘ 自然公園及び自然観察マップ</li> <li>&lt;その他&gt;</li> <li>㉙ 観光と環境負荷</li> <li>㉚ 沖縄の基地</li> <li>㉛ 環境保全に関連した法律など</li> </ul>					
第4章 環境教育情報	P 227～233	P 327～333				
	環境教育関連施設や環境教育実施団体、環境教育に活用できる参考情報を得られるウェブサイト等を掲載しています。					
第5章 資料編	P 237～240	P 337～340				
	プログラム中のキーワードとなる専門用語の説明や、参考引用文献・資料、プログラム改訂検討委員会の名簿等を掲載しています。					

## 5 おきなわ環境教育プログラム集（学校教育編）について

■大項目毎のプログラムの概要・学習内容は次のとおりです。

大項目	中項目	プログラム名	学習内容	対象学年	所要時間	掲載ページ
大項目1 暮らし	<p><b>学習のテーマ</b></p> <p>近年、地球温暖化を一因とする異常気象が顕著にみられます。様々な要因から進む地球温暖化を日常生活の中から考え、一人ひとりが「自分事」として地球温暖化対策に取り組めるよう促します。</p> <p>また、地震大国である日本では、常に災害と隣り合わせにあります。特に、近年では異常気象における被害も加わり、自然の脅威にさらされています。そのため、日々の生活から地域の情報を学び、災害時に備え、安全で安心して暮らせる地域を目指し、一人ひとりの意識を向上します。</p>					
	食	①グローバル食品館	スーパー等のチラシから産地を調べ、白地図に記載することで、フードマイレージを学びます。また、地産地消や自給率について考えます。	全学年	45分	25
		②エコロジカルクッキング	調理方法の違いによるCO <sub>2</sub> の排出量の違いを調べ、環境に配慮した選択について考えます。	小学5年生以上	45分	29
		③フードロスゼロ・ミッション!	世界における食の問題について学び、日々の学校給食のフードロスを調べ、削減する対策を考えます。	小学5年生以上	45分×2	33
エネルギー		④もしものはなし...	日常生活で欠かせない「水・電気・ガス」の供給が止まったら、普段の生活はどのようになるのか考えることを通して、災害時の備えについて考えます。	小学5年生以上	45分	39
		⑤エネルギー調査隊	家庭や学校の電気利用量を調査し、日常生活でCO <sub>2</sub> をどの程度排出しているかを気づかせ、普段の生活で取り組める省エネについて考えます。	小学5年生以上	45分	41
		⑥ミライのエネルギー	沖縄のエネルギー事情を学び、未来のエネルギーのベストバランスを考えます。また、再生可能エネルギーによるエネルギーの地産地消を学びます。	小学5年生以上	45分	45
地域		⑦まちかどチェック	学校周辺を散策し、モノや人、店、地形等の環境を調べ、地域マップを作ります。また、特徴的な箇所は地域の方の声を集めることで、地域の特性を学びます。	小学5年生以上	45分×2	51
		⑧スナップタイムマシーン	地域の昔の写真を集め、現在との違いや変化について気づくことで、将来の地域環境について考えます。	全学年	45分	53
		⑨記者クラブ	新聞やインターネットから環境に関するニュースを集め、気になる地元の記事も見つけることで、地元についての理解を深めます。	小学5年生以上	45分	57
防災		⑩風を読む	沖縄の生活に密着した旧暦と季節の変化について風を中心に理解し、自然現象と生活の関りに気づきます。	中学生以上	45分	61
		⑪災害を知ろう!	近年の自然災害について学ぶと共に、過去に沖縄で起きた災害について学びます。また、災害時の備えについて話し合い、防災意識の向上を図ります。	小学5年生以上	45分	65
		⑫防災マップを作ろう!	通学路マップを作成し、学校地域の地図から災害時に危険な箇所を確認し、避難場所や経路について話し合うことで、災害に備える知識を深めます。	小学5年生以上	45分×2	67

大項目2 ごみ	<b>学習のテーマ</b> 経済成長に伴って生活が豊かになった反面、大量消費型ライフスタイルに変化したことで、ごみ問題は世界的な社会課題となっています。特に、島しょ県である沖縄県では切実な問題です。日々の生活から生まれる“ごみ”について、当事者としての意識を高め、課題解決に向けた取り組みを考えます。また、“ごみ”を“資源”として見直すことで、ごみの削減を目指します。				
	中項目	プログラム名	学習内容	対象学年	所要時間
廃棄物	⑬ポイ捨て探偵団	学校周辺のポイ捨てごみを調べ、どんなものがどんなところに落ちているかを調査することで、ポイ捨てに関する問題点とその対策を考えます。	全学年	45分×2	73
	⑭ごみの行方・・・	学校地域のごみ処理について調べ、ごみを分別する理由を考えることで、ごみを出す事への責任を意識付けます。	小学5年生以上	45分	77
	⑮プラスチックな毎日	日常で使用しているプラスチック製品を調べ、プラスチック製品が大量にあることに気づき、使用を減らすことができるか考えます。	全学年	45分	83
資源	⑯エコロゴマークを探せ!	日常にあふれる様々な物には、エコロゴマークが付いていることに気づき、意味や目的に応じて環境活動の一端を担っていることを理解します。	小学5年生以上	45分	87
	⑰3R選手権	すごろくを作成することで、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の意味を理解し、ゲームを通して実践行動につなげます。	小学5年生以上	45分	93
	⑱ごみの山は宝の山	自分を中心にした生活の循環図を作成し、「捨てるもの」からビジネスチャンスを考案することを通して、循環型社会を考えます。	中学生以上	45分	95
大項目3 みず	<b>学習のテーマ</b> 私たちの生活に欠かすことのできない「水」。地球上に水があることで、生命は誕生しました。当たり前のように蛇口をひねると水が流れ、排水溝へ流れていきます。水はどこから生まれ、どこへ行くのか。日常にある水の循環に着目し、水環境の現状を学びます。また、社会生活や気候変動における水環境への影響を理解し、限りある水資源を考えます。				
	中項目	プログラム名	学習内容	対象学年	所要時間
水循環	⑲水ソムリエ	ミネラルウォーターや水道水を飲み比べ、採水地による“水”の味の違いを理解することで、地元の水における水環境を考えます。	全学年	45分	101
	⑳しずくんの旅	すごろくゲームを通して、雨として降り注いだ水が生活、河川、海を通して循環していることに気づかせ、水循環への理解を促します。	小学5年生以上	45分	105
	㉑水が危ない!	“水”に関わる写真をグループごとに配布し、世界各地の水事情を知ることで、地元の水環境について話し合います。	小学5年生以上	45分	109
水利用	㉒水の惑星	地球上に存在する“水”のうち人間を含めた生きものが利用できる水の量を理解し、水資源の有限性を理解します。	小学5年生以上	45分	113
	㉓水の汚染者を追跡!	1日の間に利用する水の量について振り返り、日常生活に必要な水の量を理解します。また、「水を利用する=水が汚れる」ことに気づかせます。	小学5年生以上	45分	115
	㉔水の洗濯	下水処理について考え、ろ過実験を通して水の浄化処理について理解することで、水の大切さを学びます。	小学5年生以上	45分	119

大項目 4 しぜん	<b>学習のテーマ</b> 亜熱帯性島しょ地域である沖縄県は、世界的にも貴重な動植物が生息する地域です。しかし、島しょ地域であるため、様々な要因から影響を受けやすい環境にあります。日常生活の中に潜む自然の営みに気づき、沖縄の豊かな自然環境への興味を深めます。また、自然環境を守り共生していく力を養います。				
中項目	プログラム名	学習内容	対象学年	所要時間	掲載ページ
生きもの	㉔いきもの探偵団	学校内で観察できる虫や鳥、植物について観察し、種類や生態を知ることで、学校の自然環境について考えます。	全学年	45分 ×2	123
	㉕Where are you from? (どこからきたの?)	身近に生息する外来種について学び、生態を理解することで、他の生物への影響について考えます。	全学年	45分	127
	㉖My leaf	学校内にある植物の葉をルーペで観察し、細かな特徴をスケッチすることで、葉の多様性について理解します。	全学年	45分	131
共生・多様性	㉗プールの生きもの大捜査!	冬場、学校のプールに集まる生物の変化を観察し、生態系を作る生きものつながりについて考えます。	全学年	45分 ×2	135
	㉘沖縄いきものねっと	多種多様な生きものの関係性を理解し、生物多様性を学びます。	全学年	45分	139
	㉙生きる戦略!	花とチョウ、ミツバチの関係性を理解し、食物連鎖における戦略について学ぶことで、動植物同士の関係性や進化について考えます。	小学5年生以上	45分	143



## 6 おきなわ環境教育プログラム集（社会教育編）について

■大項目毎のプログラムの概要・学習内容は次のとおりです。

中項目	プログラム名	学習内容	掲載ページ	
大項目1 暮らし	<b>学習のテーマ</b> 地球温暖化は、気候の変化や海面の上昇などを引き起こします。その結果、自然環境や人々の暮らし、健康などに大きな影響を及ぼすことが危惧されています。地球温暖化は地球規模の問題ですが、その原因や解決策は私たち一人ひとりの日々の暮らしに直結しており、日常生活や産業等の様々な活動を環境の視点から見直すことが重要です。このプログラムでは、私たちの暮らしと環境や地球温暖化とのつながり、そして私たちには何ができるかを考えることを目的に、「食」「地球温暖化」「大気環境」「防災」について学習します。			
	食	①チラシ探偵団	スーパーのチラシの食品に記載されている産地表示を手がかりに、食品が県外や国外などいろいろなところから運ばれてきていることに気づき、食品の輸入から見える食料自給率、地産地消について考えます。	21
		②カーボンフットプリントってなんだろう？	食品などのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスをCO <sub>2</sub> に換算する「カーボンフットプリント」という概念を使って、私たちの食生活と環境への影響について考えます。	27
	③エコロジークッキング	普段の買い物や料理をすることからフードマイレージやごみの減量について学び、どのような行動や選択が環境にやさしいか気づき、地球環境のために普段の生活でできることを考えます。	33	
地球温暖化	④地球温暖化を体験しよう	身近な道具で装置を作り地球温暖化を体験する実験を通して、地球温暖化が起こるメカニズムを学習し、自然災害や環境への影響の要因に気づき、私たちにできる地球温暖化対策について考えます。	39	
	⑤CO <sub>2</sub> CO <sub>2</sub> ダイエット	CO <sub>2</sub> を減らす行動を実践することで、エネルギーの消費が抑えられ、家計にもやさしいことに気づき、私たちにできる地球温暖化対策について考えます。	45	
	⑥ウェビングで地球温暖化を考える	クモの巣を張るように考えを広げていく手法「ウェビング」で、地球温暖化から派生する様々な問題や事象のつながりに気づき、地球温暖化の影響や解決に向けた行動について考えます。	49	
大気環境	⑦メッツチャレンジ	車に乗らず歩き、活動量から消費カロリーを計算することを通して、歩くことが肥満防止など健康に良いだけでなく、大気汚染を防止する行動になることに気づき、車の利用と大気汚染、健康について考えます。	53	
	⑧エコカー探検隊	車から出る排気ガスが及ぼす影響と、環境にやさしいエコカーの種類や仕組み、普及に向けた課題などを調べることで、車による大気汚染について考えます。	59	
	⑨きれいな空気で満点の星空を	星空観察を通して、きれいな空気、夜の暗さの大切さに気づき、大気汚染や光害等が及ぼす影響について考えます。	65	
防災	⑩ダンボールトイレを作ってみよう	災害時に電気や水がストップトイレが使えなくなることに気づき、ダンボールトイレ作りで、自助力の向上や災害について考え、行動する力を身につけます。	73	
	⑪家族で考える台風対策	沖縄の身近な自然現象「台風」と対策について、家族で「いつ」「誰が」「何を」やるのかを話し合うことで、台風による災害について考え、行動する力を身につけます。	77	
	⑫わが家の防災マップ	私たちが暮らす地域を歩きながら、災害時に危険な場所や役に立つものを地図に書き込んだ「防災マップ」を作り、地域を防災の観点で見ることで、災害時の情報を収集する力や、行動する力を身につけます。	83	

大項目 2 ごみ	<p><b>学習のテーマ</b></p> <p>県民の生活様式の多様化や消費意識の変化等により、排出されるごみは多岐にわたる一方で、最終処分場のひっ迫が顕在化しており、廃棄物処理をめぐる状況は依然として厳しい状況です。さらに、廃棄物処理は、温室効果ガスの排出による地球温暖化問題、天然資源の枯渇の懸念、大規模な資源採取による自然破壊など、様々な環境問題にも密接に関係しています。このプログラムでは、ごみの問題や3R（リデュース、リユース、リサイクル）、そして私たちには何ができるかを考えることを目的に、「廃棄物」「資源」について学習します。</p>		
	中項目	プログラム名	学習内容
廃棄物	⑬海岸清掃を やってみよう	海岸にはどのようなごみがどこから来ているのかを調べ、世界中のごみが海を漂っていることに気づき、世界のごみ問題や環境への影響、海の生態系への影響について考えます。	91
	⑭意外なところに プラスチック	海岸のごみの中から、マイクロプラスチックをふるい分けて観察し、微小で自然分解できないごみが海を汚染していることに気づき、プラスチックごみがなぜ問題なのか、私たちにはどのような行動ができるのかを考えます。	97
	⑮分けたらどうなる？ ごみの分別	ごみの分別やごみの行き先について学び、分別の理由や必要性、ごみがどう処分されているのか気づき、資源化やごみを減らすために私たちができる行動について考えます。	103
資源	⑯エコロジーイベント を開催しよう	「環境」をテーマにしたイベントを企画し、ごみをできるだけ出さないイベントの運営方法を計画、実践、事後評価を行います。さらに、これらの課題や改善点に気づき、見直しを行うことで、環境にやさしいイベントのステップアップにつなげます。	109
	⑰捨てるものが 役に立つとき	ごみになるはずの材料から紙を作ることで、暮らしの中でごみを再利用する工夫ができることに気づき、リデュース、リユース、リサイクルについて考えます。	115
大項目 3 水	<p><b>学習のテーマ</b></p> <p>水は地球上のすべての生命の源であり、他に代替物のない貴重な資源です。私たちが日常生活や経済活動を営む上で水は不可欠ですが、このような水の大切さを忘れがちです。しかし、現在、世界人口の増加、開発途上国の経済成長、気候変動などにより、世界規模での水資源問題が発生しています。これらに対応するため、日本を含めた国際社会による水資源問題解決に向けた取り組みが進められています。（国土交通省 HP より）</p> <p>このプログラムでは、水が有限であることや水の大切さに気づくこと、そして私たちには何ができるかを考えることを目的に、「水循環」「水利用」「世界の水事情」について学習します。</p>		
	中項目	プログラム名	学習内容
水循環	⑱水の旅	私たちが普段使っている水がどこから来るのかを学習し、水が有限であることに気づき、水源、生活排水、水利用の現状などから私たちの生活と水の関わりについて考えます。	123
水利用	⑲水の使用量調べ	私たちが生活の中でどのくらいの水を、何に使っているのかを調べ、水の大切さに気づき、私たちができる節水方法について考えます。	129
	⑳バックテストで水質調べ	COD 測定や BOD 計算から河川の水質について調べ、私たちの生活から出てくる「生活排水」と河川の汚れの関係について気づき、水の汚れによる川や海の生きものへの影響について考えます。	135
世界水事情	㉑安全な水が飲めるのは？	水汲みを行う子どもの映像を見て、感じたことを自由に発言することで、国によって水との関わり方が違うことに気づき、貧困、教育、衛生問題など、世界の様々な水問題について考えます。	141

中項目	プログラム名	学習内容	掲載ページ
生きもの	㉒バタフライウォッチングで緑の環境を診断しよう	公園や森林など、様々な場所でチョウを観察し、確認したチョウの種類から緑の環境が見えることに気づき、身近な自然環境について考えます。	149
	㉓バードウォッチングで鳥が暮らす環境を考えよう	自宅の庭、公園、川、干潟、森林など、様々な環境に生息する野鳥を観察し、沖縄が渡り鳥の重要な休息地であることに気づき、鳥から見える沖縄と世界の環境とのつながりについて考えます。	159
	㉔沖縄のどんぐり探検	沖縄に自生するどんぐりの木を観察し、樹木の特徴、生育環境を学習し、森林の重要性や本来の自然について気づき、森林保護について考えます。	169
	㉕あなたは海の何番地？	沖縄を代表する海の自然「サンゴ礁」とその環境に暮らす生きものを観察し、底質（岩場や砂地）や水深といった地形と、そこに住む生きものの関係に気づき、海の生態系について考えます。	173
共生・多様性	㉖地域固有の生きものを探そう	地域の名前がついている生きものについて学び、沖縄が国内でも生物多様性の高い地域であることに気づき、その自然を守ることの重要性を考えます。	179
	㉗世界に誇れるやんばる・西表の自然	世界でも有数の生きものの宝庫であるやんばる・西表島の自然を観察し、世界に二つと無い自然の重要性に気づき、これらの地域と野生生物を取り巻く環境問題について考えます。	187
	㉘自然をつなぐネットワーク「ビオトープ」を作ろう	身近な自然を観察し、私たちの暮らしに地域の自然を取り入れる「ビオトープ」を作ることで、自然の連続性に気づき、地域の自然をつなぐネットワークの役割について考えます。	195
自然と暮らし	㉙沖縄の季節を探そう	身近な自然から見える季節を知り、生きものカレンダーを作ることで、沖縄の自然の特性に気づき、季節と生きものについて考え、四季の移り変わりを自然から気づく感性を育みます。	201
	㉚沖縄の自然と暮らしを考えよう	私たちの暮らしで使われてきた「自然」について学び、私たちの暮らしが自然とともにあることに気づき、沖縄の自然と生活や歴史との関わりについて考えます。	207
外来生物	㉛沖縄の中の外国を探そう	身近な場所の外来生物を観察し、昔から親しんできた生きものには外国産の生きものが意外と多いことに気づき、その背景と「外来生物」と呼ばれる生きものたちが自然に及ぼす影響を考えます。	213
	㉜地域の猫調査隊	地域の野良猫を調査することで、野良猫や野良犬の社会問題、動物の適正飼育の必要性に気づき、野良猫や野良犬が野生生物へ与える影響について考えます。	219

大項目 5 五感	学習のテーマ 私たちは、「見る」「聞く」「嗅ぐ」「触る」「味わう」という五つの感覚を持っています。沖縄の豊かな自然を「聞く」「触る」「見る・嗅ぐ・味わう」の五感で体感し、楽しみながら身近な自然に触れるプログラムです。また、プログラムを通して、感性や表現力を身につけます。		
	中項目	プログラム名	学習内容
聞く	㉓身近な鳥の声を聞いてみよう	身近な鳥を見分けるなど、周りの自然に親しむことを大きな目的とし、鳥の鳴き声を音や言葉に例えたりすることで、表現力や想像力を育み、相手に伝える力を身につけます。	227
触る	㉔身近な植物を触ろう	身近な緑の環境に親しむことを大きな目的とし、葉の特徴を観察し、名前をつけることで、表現力や想像力を育み、個々が持っている感性を高めます。	233
見る・ 味わう 嗅ぐ	㉕身近な自然を見よう！ 嗅ごう！味わおう！	身近な小さな生きものに親しむことを大きな目的とし、擬態する動物を見つけることで、身近な動物に関心を持ってもらう。また、植物の匂いを嗅いだり、味見をしたりすることで、身近な植物に関心を持ってもらいます。	239

## 7 最後に

おきなわ環境教育プログラム集は、学校教育現場をはじめ、地域社会や家庭、事業者など様々な場面で、子どもから大人まで多くの方に活用していただけるよう、私たちの生活に関連した身近なテーマを題材に構成されています。

本プログラム集を体験することで、沖縄県を取り巻くさまざまな環境問題に関心を持つきっかけとなり、身近な自然に親しみ、環境保全活動につなげて、『沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島』がいつまでも続くことを願っています。

**おきなわ環境教育プログラム集（学校教育編）（社会教育編）概要版**

2020年（令和2年）3月 発行

沖縄県環境部 環境再生課（那覇市泉崎 1-2-2）

電話 098-866-2064 FAX 098-866-2497